②学生ＮＰＯ農楽塾

大学内でお米や農作物を育てたり、農家を訪れたり、あらゆる人に自然に触れる体験を提供するサークル。

（早稲田で田んぼプロジェクト「学生NPO農楽塾」HPより）

学生NPO農楽塾

・農業を自ら知ること
・農業をあらゆる人に発信すること
・農家の助けになること。

「大学の構内にドーナツ型の田んぼ（わせでん）があり、田植えをサークルのメンバーだけでなく、大学の新入生やメンバーじゃない人たちに体験してもらっています。去年は近隣に住んでいる親子が稲刈り体験に参加してくれました。他にもトウモロコシやトマトなども育てています。また、近隣の幼稚園、小学生、中学生にも来てもらっています。ザリガニもいるので、生き物に触れる体験もできます。また、色々な農家さんのところへ行きます。茨城の農家さんは、３人しかおらず、農地が荒れないように草刈りをしました。他にも山形の農家さんではブドウの収穫の手伝いをしました。」

何故ボランティアをするのか

人のためになりたい

・人の笑顔を見せたい
・人を楽しませたい
・人が困っていたら力になりたい

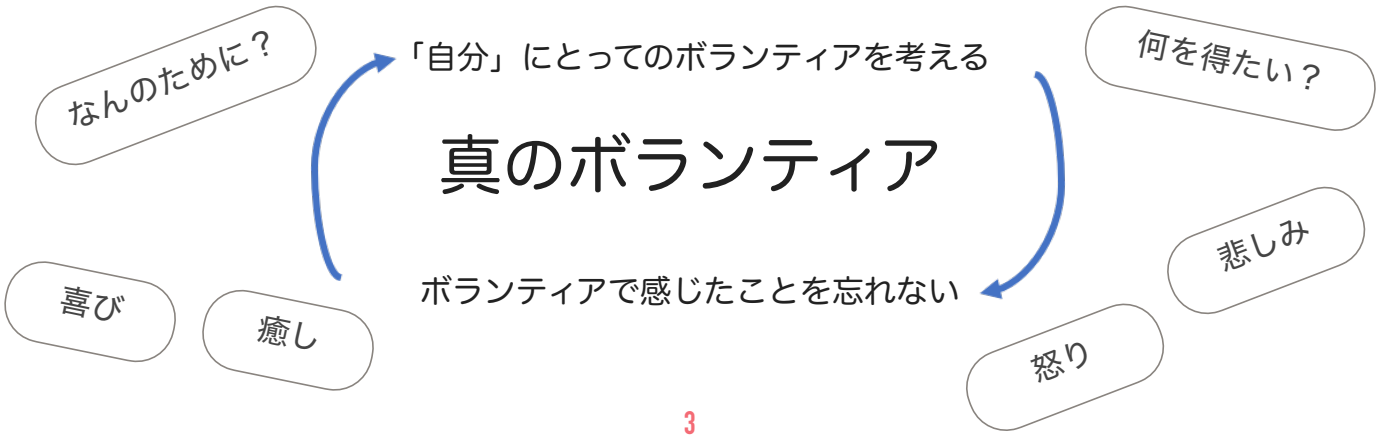
「好き」がボランティアに

「好き」としての農林業から「ボランティア」としての農林業へ

自分の成長に繋がる

ボランティア＝自分探しのツール

みんなに意識してもらいたいこと



–ボランティアをやって楽しかったことは？
「いっぱいあります。人の役に立つのが好きなので、些細なことかもしれないけど、笑顔を見せてくれたり困ってる人が喜びを感じてくれる。ボランティアという行為自体が楽しいこともあります。」

–ボランティアをやるために中学生にできること、やっておいたほうが良いことは？
「ボランティアをやって感じたことを活動記録として書き留めておくと良いです。次ボランティアする時の考えるきっかけとなるはずです。振り返りを忘れずに。ボランティアをやったことがない人は、まずやってみること。体感してみないとわからないこともあるので、違う世界も見えてくると思います。」

–ボランティアをやっていて大変なことは？
「ネガティブな感情と向き合う時です。ボランティアをしてほしい人の期待に添えているのか感情をきちんと考えてボランティア活動できているのか考える時です。」

–ボランティア活動の重要性を広めるには？
「被災地に物資支援をする時に、被災地の方に逆に迷惑になってしまった話があります。ボランティアには負の側面がある、自分勝手だと考えて嫌う人がいるのも現状です。自分がボランティアを経験して感じたいろんな感情を素直に伝えていくことが大切。綺麗事として扱うのではなく、素直に発信するのが重要かなと考えます」

講義を受けて

・まずはボランティアにチャレンジしたいと思った。いい経験になった。（1年）

・ボランティアについてよくわかりました。話してくださった涌井さんが、私の興味ある農林業を中心に活動している方だったので嬉しかったです！そして、私もこれからボランティア活動に積極的に活動していきたいと思います。（2年）

・ボランティアは人のためだけでなく、自分の好きなこと苦手なことを見つけることができると思った。それが将来のためになり、自分自身が成長できることがわかったので、これからボランティアに興味を持っていきたい。（3年）

・ボランティアはスタッフなど、人を助けるための活動だと思っていたが、今回話を聞いて、たくさんのボランティア活動があることを教えてもらった。これからたくさんのボランティアに参加していこうと思います。（3年）

・今回の講演会では、たくさんの重要なことを学べた。人のためになることだけがボランティアではないと思った。これからは楽しくボランティアをしようと思った。（3年）

・涌井さんの話を聞いてボランティアについてより知ることができた。これから自分の真のボランティアを探したいと思います。（3年）

・普段、自分でボランティアについて考える機会なんて全くなかったので、色々考えさせられる1日となりました。（3年）

事務局の飯島さんからメッセージ

まずは自分にとってのボランティアを探してほしい。サッカー好きな人に「なんでサッカーやるの？」とは聞かないですよね。楽しいからやってるんです。その楽しい延長線上でボランティアをやってほしいです。まずは自分の心の中でやりたいことを感情をごまかさずにやってほしい。

普段の生活の中で、どんなことができるかなと考えると、意外と身近にボランティアの要素はあります。是非頑張ってください。